

「画論 32nd The Best Image」に参加して

札幌医科大学附属病院 吉川 健太

「技師長、やりました！！」「私は本当にエコーが大好きなんです」

この言葉は、12月15日に東京国際フォーラムで開催された「画論32nd The Best Image」で最優秀賞を受賞した方々の喜びの声です。当日は、CT・MRI・超音波に情熱を注ぐ多くの技師が集まり、会場全体が熱気に包まれていました。入賞者たちの発表スライドからは、日々の診療で抱く小さな疑問を見逃さずそれを解決するための努力や試行錯誤が感じられ、技術と臨床のつながりの大切さを改めて実感する場となりました。

私自身もAquilion Precision部門に応募し、テクニカル賞という素晴らしい賞をいただくことができました。

CT部門では5つの演題がテクニカル賞に選ばれましたが、私の名前が最後に呼ばれるまでの間、正直なところ胃が痛くなるほど緊張していました。このような栄誉ある賞を受賞できたことは、大変光栄であり、これまでの取り組みが評価されたことに感謝しています。

「画論 ザ・ベストイメージ」に応募するにあたり、私は以下のポイントを意識しました：

1. インパクトのあるタイトル
2. スライド6枚以内で内容を簡潔に伝えること

放射線技師が撮影した画像の「技術的完成度」と、それを診る医師が「素晴らしい画像だ」と感じる臨床的価値。この2つが一致することが、最終プレゼンテーションに進むための重要な要素だと考えています。

私が応募した演題は、「肺血流コードマップとBPA治療支援を加味したハイブリッド撮影法」です。この研究では、慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）の治療法であるバルーン肺動脈拡張術（BPA）に焦点を当てました。BPA治療では、正確な肺動脈分枝の同定が極めて重要です。この課題に対し、以下のアプローチを行い

ました：

- ・ TBT法の活用：早期および後期肺動脈相を撮影し、気管支動脈からの側副血流による灌流維持領域を描出し

ました。早期肺動脈相で血流低下が確認され、後期肺動脈相で血流増加が見られる領域は、BPA治療で高い効果が期待されます。

- ・ ^{SURE}Subtraction Lungによる肺血流評価：キヤノンメディカル製アプリケーション「^{SURE}Subtraction

Lung」を活用し、治療対象となる肺動脈分枝を効率的に推測する方法を提案しました。これにより、BPA治療の精度向上と効率化が期待されます。

これらの手法を組み合わせることで、BPA治療の成功率向上につながる可能性を示しました。

今回の「画論32nd The Best Image」は、私にとって成長を促す大きな機会となりました。また、当院の大橋氏と共に最終プレゼンテーションに参加できたことをとても嬉しく思います。研究を通じて得られた成果が評価されることは、日々の診療におけるモチベーションとなります。ぜひ皆さんも次回の「画論33rd The Best Image」に挑戦してみたいかがでしょうか？

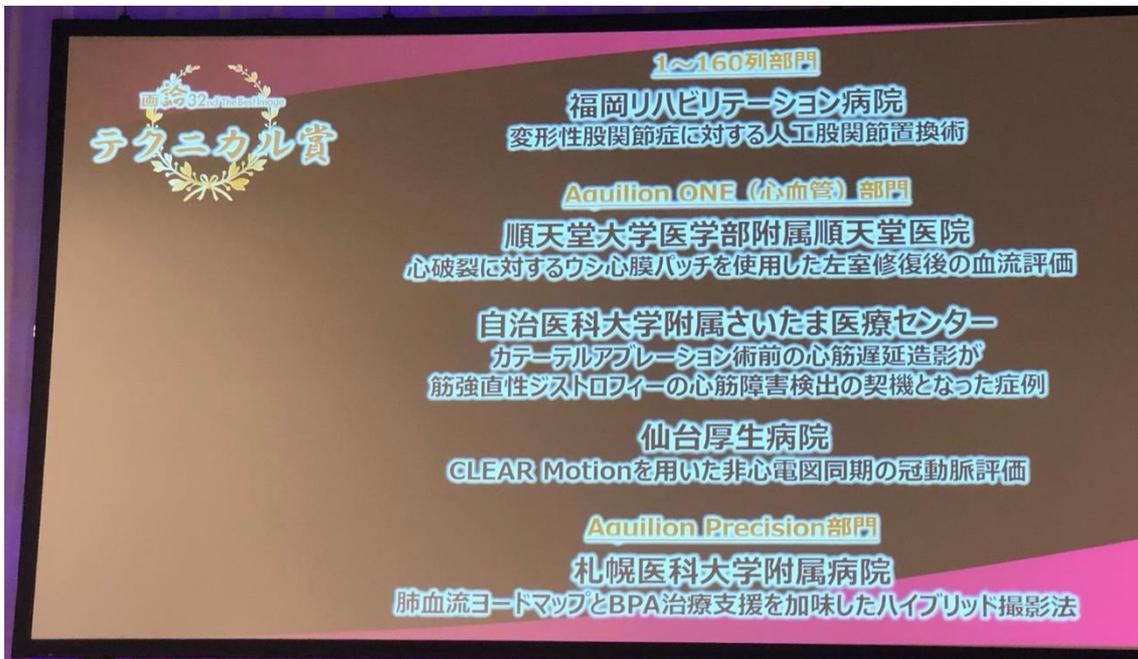


写真1 最後に呼ばれるまでの間、胃が痛くなるほど緊張していたテクニカル賞



写真2 札幌医科大学附属病院からは2演題が優秀賞にノミネート。とてもいい思い出となりました。